

## 大阪産農産物を展示 母子生活支援施設へ寄贈

大阪府農業経営者会議

大阪府農業経営者会議(稲田元正会長)は10月24日、令和7



展示に足を止める来場者たち

当日はシュンギク等の軟弱野菜、ジャガイモ、パプリカなど20会員が生産した農産物を展示。参加者らは、「大阪にこのような農産物

年度大阪府農業委員会大会に際して、会場で会員が生産した農産物を展示。大会に出席した消費者に大阪農業をPRした。

があるのを初めて知った」「売っているのを見つけたらぜひ買いたい」など様々な反響があった。大会終了後は八尾市内の母子生活支援施設「ルフレ八尾」に寄贈。稲田会長が自身の生産する難波葱の歴史をはじめ、各農産物の説明を行い、同席した施設のスタッフや児童らは、説明を熱心に聴き入った。

### パネル展示で活動内容のPR

当日は、農業委員会大会における農産物展示とともに、大阪

府農業経営者会議、大阪府農業法人協会の活動を紹介するパネルを展示。府内外の経営体や施設等を見学する視察活動や、知識の向上を図る研修会、府民向けの食育活動、大阪府や国への政策提案活動など、組織で取り組んでいる様々な活動を来場者に対してPRした。

(沼田)



後日子ども達からお礼のメッセージが届いた

### なにわ農業賞受賞者紹介88

## 消費者ニーズに応じた生産を

貝塚市 櫛本 慶二さん

いる。

令和元年に「なにわ農業賞」を受賞した貝塚市串中の櫛本慶二さん(66)は、約80坪の農地でトマト、ネギ、ホウレンソウ、キャベツ、水稲などの多品目を生産している。

高校卒業後に一般企業を経て36歳で親元就農した櫛本さんは、父の元で軟弱野菜を中心に生産し、卸売市場向けに出荷していたが、経営移譲を受けた後は現在では契約出荷に加え、JA直売所への出荷や庭先での対面販売も行っている。

販路拡大のほか栽培技術の工夫にも注力し、試行錯誤の末に施肥時期の調整と蜂による受粉などを活用した高糖度トマトの独自栽培方法を確立して、好評を博してきた。6次産業化にも積極的で、平成28年からはトマトを使用したジュース、パスタソース、ケチャップ、ジャムを販売している。



収穫を控えた大根と紅大根の畑で

し、需要に応じた品目を選定して柔軟に導入する少量多品目栽培に取り組んできた。平

成25年度からは大阪版認定農業者として、農業経営計画の認定を受けている。

地域においては、

農業委員、水利組合長、実行組合長を歴任。現在も両組合の役員を務め、農地の適正利用やため池・水利の維持管理に长年携わってきた。

そのほか、地元の小中学生を対象とした収穫体験学習への協力に加え、市の農業祭に農産物を出展・販売するなど、消費者への地元農産物の

普及・啓発活動に尽力している。

常に時代に応じた品目の選定を行う櫛本さん。妻の眞由美さんから「米粉のパンを販売してはどうか」との提案を受けて、「これからグルテンフリー食品が流行するかもしれない。米粉パンなどの加工に適した高アミロースの品種の栽培を検討している」と話す。

今後については「消費者に喜んでもらえる野菜を作るには手間をかけることが大切。品質を保つ努力を怠らず、体が動く限りは頑張りたい」と笑顔で話してくれた。(林佑)